

研究レポート No.804 岩手県農業研究センター

ブルーベリー栽培における有機質資材の利用法（追補）

【1 成果概要】

りんご園から毎年大量に排出される剪定枝の有効な利用技術として、剪定枝チップのマルチ資材としての利用が考えられます。

そこで、ブルーベリー栽培においてマルチ資材として利用した場合の樹体生育及び土壌への影響について知見を得たので紹介します。

- (1) りんご剪定枝チップをブルーベリー栽培でマルチ資材として利用すると、初期生育が良好であり、その後の生育も良好な状態を維持できます（図 1）。また、根量もマルチ資材が無い場合と比較し多くなります（図 2）。
- (2) マルチ資材として連年施用すると、土壌の深さ 0～10cm で土壌 pH が高まり、交換性塩基、可給態リン酸、炭素及び窒素が蓄積する傾向にあります（図 3）。しかし、土壌化学成分等の蓄積が樹体生育に悪影響を及ぼすことはありません。

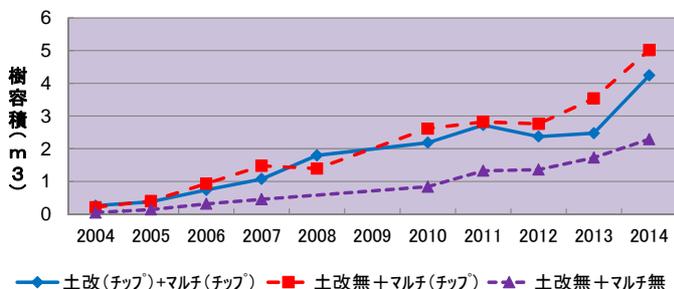


図 1 りんご剪定枝チップのマルチ連年施用による樹容積の変化 (2004～2014 年、連用 0～11 年目)



図 2 マルチ資材連用 12 年目の根の状態 (左：土改(チップ)+マルチ(チップ)、右：土改(チップ)+マルチ無)

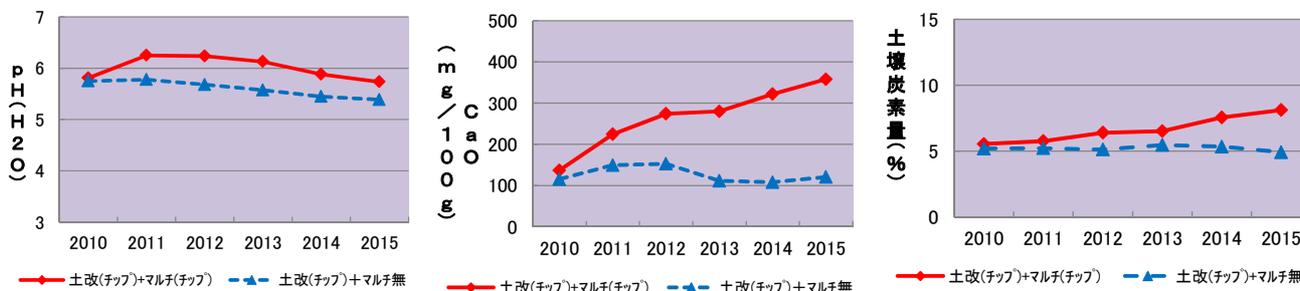


図 3 りんご剪定枝チップのマルチ連年施用による pH、交換性石灰、土壌炭素量の年次推移 (土壌深さ：0～10cm、2010～2014 年、連用 0～11 年目)

＜耕種概要等＞

植栽年・間隔：2004 年春 (1.25×5m、2009 間伐後 2.5×5m)、2010 年春 (1.25×5m) (品種「デューク」1 年生苗)
 土壌改良方法：2004 年春定植 (植栽時、3.7t/10a のりんご剪定枝チップを幅 1m、深さ 0.4m の植溝に入れて耕起)
 2010 年春定植 (植栽時、3.2t/10a のりんご剪定枝チップを幅 1m の帯状に敷設後耕起)
 マルチ方法：毎年 5 月に厚さ 10cm 程度 (18.8～27.6kg/m²) になるよう敷設した。
 施肥方法：ブルーベリー専用肥料 (N-P-K=6-5-5) を、幼木で N11g/樹、成木で N18g/樹施用した。
 pH 調整として、硫黄華を 2012 年から毎年 300g/樹全ての区で施用した。
 その他：土改 (=土壌改良資材)、チップ (=りんご剪定枝チップ) の略

【2 留意事項】

- (1) りんご剪定枝チップをマルチ資材として利用する場合は、土壌 pH が高くなる傾向があるため、必要に応じて硫黄華等を使用します。
- (2) 土壌中の窒素の蓄積による減肥効果は不明であるため、肥料は通常通り施用して下さい。